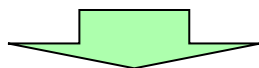


# 甲府市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年11月～26年10月) ※ 期間延長適用後

## 【中心市街地を巡る状況】

- 山梨県の県都として、行政、産業、交通等の中心として発展。平成12年には特例市へ移行。
- 中心部に位置する複合商業施設の業績不振による店舗撤退、郊外への大型店舗の進出により、地域住民の生活を支える機能が低下。



## ○歩行者通行量

20調査地点における11月最終金・土・日の3日間の合計

H12 : 243,705人  
→ H19 : 182,231人 (▲25.2%)

## ○年間小売販売額

H9 : 85,661百万円  
→ H19 : 47,449百万円 [推計] (▲44.6%)

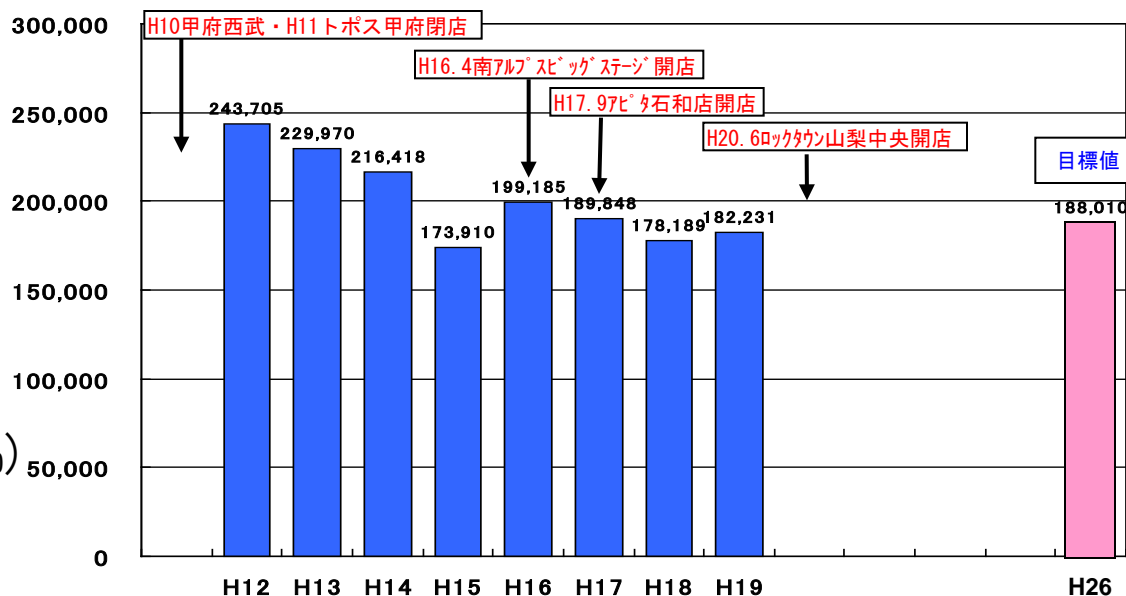
## ○居住人口

H12 : 6,299人  
→ H20 : 5,804人 (▲7.8%)

## 【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H26)
近隣商業と都心型商業が共存する商店街の再生	小売販売額	47,449百万円 (H19) [推計]	49,640百万円
拠点施設や歴史文化施設の整備によるにぎわいの創出	歩行者通行量	182,231人 (H19)	188,010人
住環境整備や居住支援によるまちなか定住促進	居住人口	5,804人 (H20)	6,090人

## 【歩行者通行量の動向と数値目標】



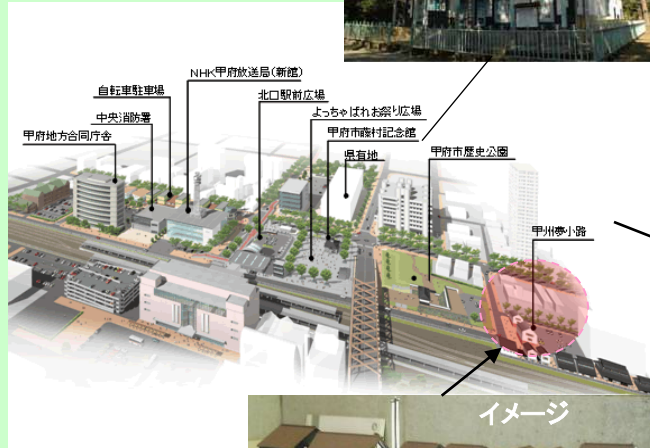
県都としての既存施設の集積をベースに、甲府駅周辺に歴史文化施設等の更なる拠点集積を図るとともに、再開発商業施設を核として周辺商店街の活性化に取り組むことにより、人々が集い、憩い、楽しめる中心市街地の再生を目指す。

# 甲府市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 拠点・歴史文化施設の集積(駅周辺)

### ○甲府駅周辺拠点形成

公共施設や駅前広場、多様な交流を目的としたイベントの開催も可能な**多目的広場**「よっちゃばれお祭り広場」を整備。多目的広場内に**国指定重要文化財の藤村(ふじむら)記念館**を郊外から移築。



### ○甲州夢小路整備

**明治・大正・昭和の街並みを再現**。歴史公園や藤村記念館との連携効果を期待。**宝石博物館**や**版画美術館**、**飲食・物販店舗**等を配置。コンサートや各種イベントも実施。



### ○シビックコア地区への公共公益施設の集積

分散している国の出先機関やNHK甲府放送局を集積させ、利用者の利便性向上を図るとともに、**単身者住宅を整備**して居住人口を確保。

### ○新県立図書館の整備(施設規模の拡大)

新たに整備するペDESTリアンデッキにより駅から容易にアクセス。新たなにぎわいを創出。

## 拠点をつなぐ(効果の伝播)

### ○無料回遊バス・レトボンの利便性向上

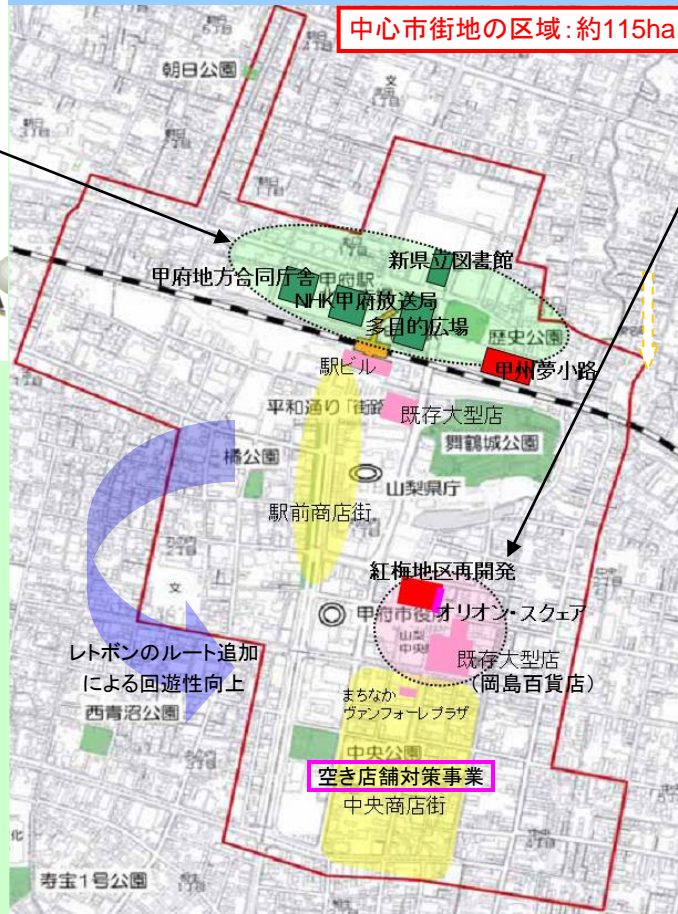
駅北口の集客施設の整備に合わせて**ルートを見直し**、拠点から拠点へのアクセスを向上し、回遊性を確保。



### ○市役所新庁舎の建設

現位置での建替え。駅と紅梅地区をつなぐ拠点としてギャラリー等に活用できる**市民開放スペース**や農産物の直売やフリーマーケット等ができる**市民広場**を整備。

中心市街地の区域: 約115ha



## 新たな商業施設を核とした商店街再生

### ○紅梅地区再開発

中心市街地の**新たな核**として整備する**複合商業施設(店舗、駐車場、郊外から移転する県立宝石美術専門学校、住宅)**。若者の回遊促進、居住人口の確保。



### ○オリオン・スクエア整備

紅梅地区再開発ビルと既存大型店をつなぐ**新たな都心型商業拠点**として既存商店街を再生(アーケードの架け替え、専門店の充実等)し、回遊性を向上。**イベント広場**としても活用。空き店舗活用による県立宝石美術専門学校との連携による卒業生や県認定のジュエリーマスターによる**ジュエリー作品の発表や販売**を展開。

## 拠点のにぎわいを支える

### ○共通駐車場システム構築

商店街、大型店、駐車場事業者が連携して**共通無料駐車券**を発行(大型店駐車場を含む1,000台分を共通化する予定)。アクセスの向上。

### ○バス乗車券サービス事業

バス利用買い物客への**利用券配布**。来訪の促進。

### ○ポイントカード・システム導入

中心市街地加盟店で、買い物に応じたポイントの発行やポイント倍セール、旅行券を景品としたイベント等を展開。来訪の促進。

### ○Jリーグチーム ヴァンフォーレ甲府との連携

**まちなかヴァンフォーレプラザ**を拠点とした選手参加によるイベント等の展開。にぎわい創出。